

石川県生物多様性戦略ビジョン 概要版

—自然と人との共生し、豊かな自然環境と地域文化が調和するいしかわの実現—



2026（令和8）年7月

石川県 

●生物多様性とは何か

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種とも言われる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つ一つに個性があり、全て直接的に、間接的に支えあって生きています。

●生態系サービスと生物多様性の重要性

供給サービス

食料、木材、燃料、繊維、医薬品、水等、私たちの暮らしに必要なものを供給してくれる機能

調整サービス

気候を穏やかにしたり、洪水を抑えたりといった環境を暮らしやすいように調節してくれる機能

文化的サービス

様々な生きものや自然によりもたらされる心身の安らぎや充足等、精神面における生活を豊かにしてくれる機能

基盤サービス

土壌が形成されたり、植物が光合成をしたりするなど、全てのサービスを支えるうえで基本となる機能

●生物多様性の危機

第1の危機

開発など人間活動による危機

第2の危機

自然に対する働きかけの縮小による危機

第3の危機

人間により持ち込まれたものによる危機

生物多様性の
4つの危機

第4の危機

地球環境の変化による危機

●各地域の生物多様性の現状と課題

能登の里山里海

地域の人々が手を入れ活用することにより、豊かな自然が維持されてきた里山里海は、農林水産業従事者等の地域住民の減少が続き、維持管理が困難となることで、生物多様性の低下が懸念される地域。

加賀の潟と海岸

河北潟や加賀三湖の干拓地における堤防等の沈下等によりヨシ帯が衰退している。海岸は砂丘環境が広がり、海浜植生が広く分布しているが、公共工事等の影響により土砂の供給が減少し、砂浜の縮小による生物多様性の低下が懸念される地域。

金沢と周辺の都市部

山地から都市中心部に繋がる緑の回廊が存在するなど身近な自然環境が維持されているが、一方で、里山の荒廃等に伴い、イノシシ、ツキノワグマ等が人里や市街地にまで出没し、農業被害や県民生活への影響が懸念される地域。

白山付近の高標高地

白山などの高山帯から亜高山帯付近まで多様な高山性の動植物が分布しているが、高山帯における外来種の増加やニホンジカの分布拡大等が懸念される地域。

●目標

<中長期目標（2050 年目標）>

自然と人が共生し、豊かな自然環境と 地域文化が調和するいしかわの実現



本県には、多様な自然環境があり、私たちはその自然から多くの恵みを受けながら暮らしてきました。食や伝統行事、伝統工芸など地域に根付いている文化も、こうした自然により育まれてきました。

<短期目標（2030 年目標）>

生物多様性を回復軌道に乗せるネイチャーポジティブの実現 ～トキが舞う豊かないしかわづくり～



本州における最後の生息地として本県と大変ゆかりが深く、復興のシンボルとして掲げられているトキを、生物多様性のシンボルとしても位置づけます。

●行動計画

1. 人と多様な生きものが共生する里山里海の利用保全の推進

トキの放鳥を契機として、里山里海の利用保全を一層推進します。

■ 里山のシンボルであるトキを育む環境づくり

トキの生息環境整備の推進、トキのモニタリング体制の整備、子どもたちへの環境教育の実施 など

■ 里山里海の資源を活用したビジネスの創出

「いしかわ里山みらいファンド」による地域資源を活用した新商品・新サービスの開発支援 など

■ 里山里海地域の振興

国内の世界農業遺産認定地域等との連携によるPR、「景観形成重点地区」の指定 など

■ 多様な主体の参画による新しい里山里海づくり

多様な主体の活動への参加促進、農業ボランティア制度の活用 など



◀ トキPRキャラクター
のときー

2. 自然を活用した地域づくり・社会課題の解決

白山の魅力向上・発信、令和6年能登半島地震からの復旧・復興など、本県の最近の動向を踏まえ、自然を活用した元気な地域づくりを推進します。

■ 生物多様性に配慮した農林水産業の振興

環境保全型農業の推進、間伐等の森林整備の実施、県産材の利用促進、藻場の保全 など

■ 気候変動への対応

いしかわ版環境ISOの推進、グリーン購入の推進、野生鳥獣の生息状況のモニタリング など

■ 白山の魅力向上・発信強化

魅力ある登山環境の整備、山麓の利活用推進、魅力の向上・発信 など

■ 自然を活用した復興推進

「のとSDGsトレイル（仮称）」の創設、生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）の推進 など



◀ 屋内木育施設
「もりのひみつきち」
(県産材使用割合94%)

3. 生態系の健全性の回復

これまで実施してきた生態系の保全に加え、30by30 目標の実現に向けた取組等を推進することにより、生態系の健全性の回復を図ります。

■ 生態系の維持・回復・創出

30by30 目標の実現に向けた取組の推進、環境に配慮した公共事業の推進 など

■ 生きものの生態に配慮した取組の推進

高山帯における低地性植物の防除活動の推進、農業参入の促進による耕作放棄地の解消・未然防止 など

■ 希少種の保全と外来種対策

県指定希少野生動植物種の追加指定、「外来種被害予防三原則」や防除方法の周知・啓発 など

■ 野生鳥獣の保護と管理

鳥獣保護区等の指定と管理の推進、ツキノワグマによる人身被害防止、狩猟者の確保・育成 など



◀ 生態系に配慮した砂防堰堤

4. 生物多様性に対する理解の促進・行動変容

これまで実施してきた県民等への理解促進に加え、自主的な行動を促します。

■ 行動変容に向けた生物多様性の普及啓発

「里山里海展」の開催、県有施設における普及啓発の推進 など

■ 自然体験活動の推進

「いしかわ自然学校」における自然体験プログラムの充実、「里山子ども園」事業の充実 など



◀ いしかわ自然学校の様子

5. 生物多様性を支える基盤づくりと国際的な情報共有・発信

多様な人材の育成や大学・研究機関等による調査研究に加え、これらを活かした国際的な情報発信を推進します。

■ 多様な人材の育成

「フォレストサポーター」の養成、いしかわ自然学校インストラクタースクールの開催 など

■ 農林水産業を担う人材の育成

「いしかわ耕稼塾」(農業)、「あすなろ塾」(林業)、「わかしお塾」(漁業)の運営 など

■ ネットワークの構築

里山里海地域と活動に取り組む団体等のマッチング支援、社会教育施設・大学などとの連携推進 など

■ 国際的な情報共有・発信

海外からの視察や研修生の受け入れ、国際認証地域の継続的な調査・報告・評価 など



◀ わかしお塾の様子



▲ 景観形成重点地区「神子原」



▲ 低山ガイドツアー



▲ 舩倉島周辺の藻場



▲ 里山里海展

石川県生物多様性戦略ビジョン 概要版 2026 (令和 8) 年 7 月

石川県生活環境部自然環境課 〒920-8580 石川県金沢市鞍月 1 丁目 1 番地

TEL/076-225-1544 FAX/076-225-1479